

昭和初期の山梨県進徳幼稚園における 「唱歌」及び「遊戯」の展開

—1929（昭和4）年度『日誌』を手がかりに—

越山沙千子^{*1}・高野牧子^{*2}

要旨

本研究は、山梨県で最も古い幼稚園である進徳幼稚園において、先行研究では未着手の昭和初期、昭和4年度の『日誌』（保育記録）を手がかりに、特に唱歌および遊戯に焦点を当てて、具体的にどのような保育が展開されていたのか、その中で子どもたちがどのようなことを経験していたのかを明らかにすることを目的とする。分析の結果、子どもに配慮した曲、内容、指導であった点、様々な幅広い曲が取り上げられ、多様な音楽や遊戯に出会い、表現することを通して、豊かな感性を育てようとした点、子どもの生活に根ざした系統的な保育が行われていた点が明らかになった。

キーワード：幼稚園 唱歌 遊戯 昭和初期 山梨県

1. はじめに

進徳幼稚園は、1898（明治31）年に開園した山梨県内で最も古い私立幼稚園である。初代園長、進藤津留氏は、山梨県で唯一の幼稚園であった山梨県師範学校附属幼稚園の主任保母として勤務していたが、同園が廃止されることになり、「何としても幼児教育の灯を消してはならない」と自分で幼稚園の設立を決意し、苦勞の末に開園した。

本園は、戦火を免れ、明治から昭和（終戦後）までの保育日誌や名簿、参考に使っていた書籍だけではなく、本園開園以前明治草創期の山梨県師範学校附属幼稚園の保育日誌など、多くの貴重な歴史的資料が保管されている。これらの資料の写しを本学の前身、山梨県立女子短期大学幼児教育学科で譲り受けた。

2. 先行研究の調査

貴重な資料をもとに、山梨県立女子短期大学幼児教育学科の教員有志による山梨県歴史研究会では、山梨県保育史研究ノート（1）から（8）までを発表している。阿部（1994：160）はこれら一連の研究について、「この研究計画は通史としての部分と特別研究、更に資料・年表部分からなる。特別研究においては各自の研究関心と本県保育史とのかかわりにおいて設定される」とし、明治期でのフレーベル教育、女性史や音楽教育、子守学校など、多様な視点から論じられている。その中で、研究ノート（6）では沢登（1995）が音楽について取り上げており、「保育並遊戯唱歌（保育唱歌）」『小学唱歌集』『幼稚園唱歌集』が、明治20年代の山梨師範学校附属小学校附属幼稚科でどう受け入れられたかについて論じている。

また、『見る山梨県保育史』（1998）を刊行し、多くの写真資料をもとに、山梨県の草創期の保育について調査し、発表している。

池田（2014：265）は、女性史の視点より「進藤津る」を丁寧に調査し、その保育観を「子ども

（所 属）

*1 公立大学法人 山梨県立大学 人間福祉学部

*2 公立大学法人 山梨県立大学 人間福祉学部

たちの自ら育つ力を信じ、それを伸ばす保育を理想としていたこと、現実の家庭には様々な問題があり、保育の場はそういう負の影響を補償する場であることなど、東京の研修会にもたびたび出向していた津るは、現代に通ずる保育観を持っていた」と結論づけている。

さらに、阿部（2014）は幼児教育者としての功績を褒めて育てる方法を提唱し、山梨に自由保育を導入し、フレーベルの恩物やオルガンなど幼稚園文化を伝えたことを挙げている。そして、「積極的に全国的な動向とつながりを作り、山梨の地に新しい文化を取り入れた先駆であったことが分かる。但し資料が少なく、十分な実証が必要であることはいうまでもない」（阿部、2014：273）と指摘している。

小山（2010、2012）は『系統的保育案の実際』（東京女子高等師範学校附属幼稚園、1935）をどのように進徳幼稚園で実際に受容していったのかを明らかにしている。進徳幼稚園では1936（昭和11）年という早い段階で系統的保育案を採り入れ、単なる模倣ではなく子どもたちにより身近なものや地域性を考慮していることから、『系統的保育案』の理念を主体的に受け止めた上で、現実の幼児の生活に根ざした形で保育案を生み出していた」と述べている（小山2012：203）。

3. 研究目的

本研究では、先行研究では未着手の昭和初期、昭和4年度の『日誌』（保育記録）を対象とし、特に唱歌および遊戯に焦点を当てて、具体的にどのような保育が展開されていたのか、その中で子どもたちがどのようなことを経験していたのかを明らかにすることを目的とする。

4. 研究の対象と方法

本研究で取り上げる『日誌』は、1929（昭和4）年5月13日（月）～1930（昭和5）年3月24日（月）卒業式、4月5日（土）始業式～9月30日（火）及びメモ書きのように書かれた10月1日（水）～10月14日（火）から成る。『日誌』の表紙には「昭和四年五月 日誌 進徳幼稚園」、1枚めくると「松之組 受持保姆進藤葆子」といづれも縦書きで記されている。

この『日誌』を記した進藤葆子は、1909（明治42）年7月、進徳幼稚園2代目園長である進藤里うの長女として東京小石川で生まれた。進徳幼稚園を卒園し、祖母である進藤津るのもとで勉強したいという希望から、小学校から高等女学校までを甲府で過ごしたという（進徳幼稚園、1998）。その後、東京府教育会附属幼稚園保姆伝習所（現：竹早教員保育士養成所）で幼児教育を学び、1929（昭和4）年に卒業、同年4月進徳幼稚園に就職した。1961（昭和36）年に教頭となり、長年園の発展に貢献した。

『進徳幼稚園創立100周年記念誌』（1998）には、進藤葆子が研究熱心で、夏のお茶の水での研修会や講演に参加して倉橋惣三の教えを受けたり、東京の幼稚園、とりわけお茶の水女子大学附属幼稚

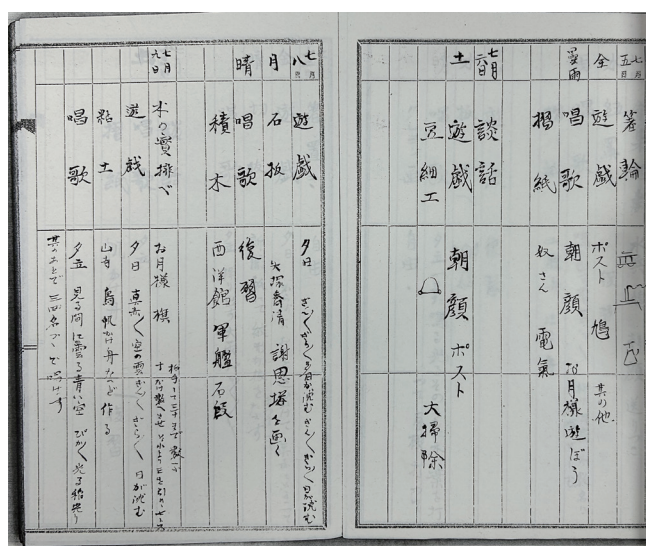


図1：『日誌』の記録

園に何度も見学に行き、学んだりし、園の教育に反映させていたことが記されている。

図1は、1929（昭和4）年7月5日（金）～9日（火）の記録である。図1のように、『日誌』には「唱歌」や「遊戯」、「談話」などの保育内容と取り扱った教材名、日によっては扱った範囲や行事も書かれている。欠席者が分かる日もある一方で、保育内容のみで教材名が記録されていない日もある。本論文では、昭和4年度の「唱歌」と「遊戯」を対象に、日ごとに活動の有無、教材名、扱った範囲（記述がある場合）を抽出し、データにまとめた（資料1参照）。そのデータを基に、唱歌及び遊戯の内容の特徴、活動の進め方を分析する。

5. 結果および考察

5-1. 昭和初期の山梨県の状況

1929（昭和4）年、世界恐慌が発生の年、山梨県でも深刻な不況に見舞われ、川池（1994：182）は「救護法の施行に先立ってなされた1929（昭和4）年の県の調査によると、要救護者は1市109ヶ村で322世帯526人にのぼりその半数は13歳以下の子供であった。未調査の133町村をいれると県内には要救護者が千人余り、千人につき16人の割合でいるものと推定された」と山日新聞（昭和4年6月13日）をもとに指摘している。また、「地域に設けられた方面委員を主体とする方面事業助成会によって農繁期託児所が設置運営されるようになる」（同：182）とし、「県内で農繁期託児所が初めて作られた年は正確には確認されていないが、昭和4年には西八代郡上野村と中巨摩郡南湖村農会で始められた記録があり、昭和4年頃が最初ではないかと思われる」と述べている（同：184）。したがって、昭和4年の段階では一般の家庭では農繁期に子どもたちを収容するような取り組みがようやく始まった状況であり、進徳幼稚園のような保育はまだ限られた家庭の子どもたちへの特別な状況であることが指摘できる。ただ、進藤津るは、子守学校も設立しており、貧しい家庭の子どもたちへの教育にも奔走している。

一方、美術界では中巨摩郡出身で「女性初の二期会会友」であった埴原久和代や堤龍雄らが甲斐美術会を結成した。また、甲府市出身の望月春江が第10回帝展で特選となった。1928（昭和3）年には埴原は『女人芸術』創刊号の表紙を飾るなど、山梨出身の女性画家が大いに活躍していた時代である。

5-2. 保育記録の結果（資料1）

記録が残る昭和4年度の保育記録は、1929（昭和4）年5月13日から1930（昭和5）年3月24日までの231日分（38週分）である。この中で、唱歌の記載があった日数は187日（81%）、遊戯の記載があった日数は184日（79.7%）であった（図2）。概ね8割の日数で唱歌も遊戯も行われている結果となった。『私立進徳幼稚園創立40周年記念誌』

（1938：2-3）によると、開設当時、進徳幼稚園規則第六條では、毎週の保育時間として、唱歌三時間、遊戯六時間としている。一方、昭和4年度では、週に平均すると、唱歌は4.9時間、遊戯は4.8時間となり、開園当時と比べ、唱歌はより多く時間を取り、遊戯の時間は減少している。しかしながら、唱歌として行いつつ、遊戯を伴うものも多く、高い割合で唱歌も遊戯も行われていたことは事実であろう。

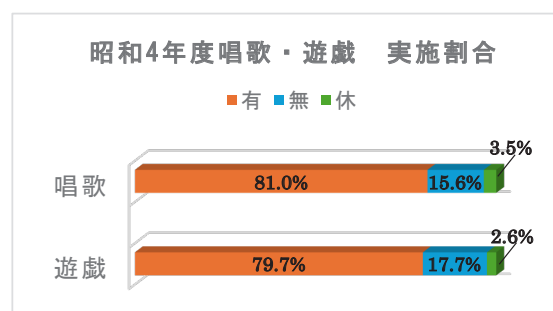


図2：昭和4年度唱歌・遊戯 実施割合

5-3. 進徳幼稚園の唱歌遊戯に関する所蔵資料

山梨県立女子短期大学幼児教育学科で譲り受けた進徳幼稚園の所蔵資料の中には、唱歌遊戯に関する様々な資料がある。本研究では、『日誌』が書かれた1930（昭和5）年9月までに出版された資料を確認し、表1にまとめた。

表1：1930（昭和5）年9月までに出版された進徳幼稚園所蔵唱歌遊戯関連資料

編著者名	書名	出版年	出版社
フレーベル会	幼稚園遊戯	1907（明治40）	フレーベル会
共益商社書店（瀧廉太郎編）	幼稚園唱歌	1901（明治34）	共益商社書店
吉丸一昌	幼年唱歌 第一集	1912（明治45）	敬文館
吉丸一昌	幼年唱歌 第二集	1912（明治45）	敬文館
葛原菫，小松耕輔，印牧季雄	童謡遊戯 第壹集	1924（大正13）	櫻木書房
葛原菫，梁田貞，印牧季雄	童謡遊戯 第貳集	1924（大正13）	櫻木書房
帝国教育音楽研究会	児童遊戯教材解説 第二輯	1927（昭和2）	（非売品）
保科寅治	昭和二年八月号 飛ばない小鳩 雁来紅 あの雲で	1927（昭和2）	初等教育唱歌 研究会通信部
初等教育唱歌研究会通信部	音楽講義 歌と振 昭和二年十月号	1927（昭和2）	初等教育唱歌 研究会通信部
土川五郎	律動的表情遊戯 第五輯	1928（昭和3）	フレーベル館

この他に、日本幼稚園協会『幼児の教育』や母親向けの雑誌の所蔵を確認している。また、「MUSIC-BOOK 保母科白組 進藤葆子」と書かれたノートは、『日誌』の記録者である進藤葆子が伝習所時代に書いたと思われるため、内容を参照した。

5-4. 唱歌

(1) 結果

唱歌の項に記録された曲を調査したところ、少なくとも48曲を取り扱っていたことが確認された。これらの作詞者、作曲者、初出、発表年あるいは出版年、楽譜について調査した。調査においては、『日誌』に書かれた歌詞及び曲名、前項で挙げた進徳幼稚園所蔵資料、進藤葆子が保母伝習所時代に書いたと思われるノート『MUSIC-BOOK 保母科白組 進藤葆子』、国立音楽大学附属図書館「童謡・唱歌索引」、国立国会図書館「デジタルコレクション」、土川五郎（1924-1929）『律動的表情遊戯』第一輯～第六輯を手がかりにして、34曲を特定し、そのうち31曲は楽譜を入手することができた。その一方で、同名異曲のある《朝顔》《家》《おねむり》《烏》《さよなら》《卒業の歌》《たこ》《月》《蛭》に関しては、曲名の情報のみでは特定することができなかった。また、「四方拝賀式唱歌」は元旦に学校に登校して行われる拝賀式で歌う唱歌を意味し、《君が代》や《一月一日》が想定されるため、特定不能とした。曲は、①儀式で歌われた歌、②明治期の唱歌、③大正期の唱歌、④童謡、⑤遊戯の5種に分類し、資料2に示した。また、表2は名須川（2004）に基づき、タイトル及び歌詞内容を「自然現象・自然物」「小動物・虫」「植物」「乗り物」「生活」「遊び」「仲間（友達）」「行事」「物語・思想・信条」「生活物・物・建築物」の10項目に分類し、活動の回数とともに示したものである。

表2：名須川（2004）に基づく、『日誌』中の「唱歌」に記録された曲の内容分類

自然現象・自然物	夕立、ニコニコピンピンの歌、どこかで春が、春よ来い、お月さんと遊ばふ（お月様遊ぼう）、お星ぴかぴか、月
小動物・虫	ホタルコイコイ（蛍こいこい）、つばめ、蝙蝠、牧場の羊、蛍の学校、稲穂の雀、動物園で、蛍、鳥
植物	木の葉、花のトンネル（お花のトンネル）、朝顔
乗り物	飛行機の夢、飛行機
生活	さよなら、おねむり、数へ方
遊び	南京玉、俵はごろごろ、上り目下り目、ヲドレ（おどれ）、鬼さん、首ふり人形、たこ
仲間（友達）	お山の鬼
行事	紀元節、（紀元節唱歌）、明治節唱歌、神宮奉頌唱歌（神宮奉讃唱歌）、お正月、四方拝賀式唱歌、卒業の歌
物語・思想・感情	金太郎、花咲爺、進軍
生活物・物・建築物	ポスト、キューピーさん（キューピー）、チョコレート（チョコレートの歌）、家

（2）分析と考察

上記の結果と『日誌』の記録を踏まえ、①作曲・発表年代ごとの歌の特徴、②歌詞の特徴、③音楽の特徴、④指導の特徴の4点について分析、考察を試みる。

①作曲・発表年代ごとの歌の特徴

幼児教育草創期の1877（明治10）年から1882（明治15）年にかけて、東京女子師範学校附属幼稚園が作成した「保育並遊戯唱歌（保育唱歌）」は、万葉ことばに雅楽調の音楽がついたものだった。また、文部省音楽取調掛が編纂した『幼稚園唱歌集』は、文語体の歌詞に外国曲の旋律が付いており、いずれも幼児には言葉が難しく、内容を理解することは困難であったと考えられる。

他方、資料2中「明治期の唱歌」に含まれる歌は、明治30年代以降に発表されたものである。『教科適用幼年唱歌』は、子どもの日常の言葉を用いる言文一致を推進した田村虎蔵と納所辨次郎によって、小学生向けに編纂された。また、『幼稚園唱歌』は、小学校に通う前の幼児に向けて、瀧廉太郎を中心に編集されたものである。全20曲のうち、17曲を瀧廉太郎が作曲している。そして、全ての曲は遊戯に合わせることができるようにならされているとともに、伴奏を付しているのが特徴である。

『言文一致唱歌』からも選曲されているように、子どもに分かりやすい、子どもが生活で使う言葉で書かれた歌を取り上げていたことが読み取れる。

明治末期から大正前期は、「童謡の先駆けとなった」（澤崎、2017：15）と言われる吉丸一昌編『幼年唱歌』や、葛原しげるが保育者と交流し、「身近な事物を幼児の視点で捉え、それを幼児の言葉で表現すること」（小山、2010a：11）を重視し、詩を書いた『大正幼年唱歌』から採られている。なお、『幼年唱歌』については、作品ができた日が明記されており、明治末期から改元間もない1912（大正元）年9月までに作られたことが明らかであるため、明治期に区分した。

大正後半以降は、大正7（1918）年『赤い鳥』発刊以降の童謡運動でできた歌が取り上げられている。資料2を見ると、童謡運動の広まりの中発刊された『金の星』（1922〔大正11〕年『金の船』から改題）や『コドモノクニ』といった雑誌に掲載された歌がある。進藤の「保姆科白組」と書かれたノートには、『南京玉』と『上り目下り目』の楽譜が書かれており、伝習所で学んだことを幼稚園での教育に生かしていたことが窺える。

以上のことから、進藤が子どもにとって分かりやすく、子どもが生活で使っている言葉で書かれた

歌を選んでいることは、明らかである。その中で、明治期や大正期前半から歌われてきたものと、童謡運動の流れを汲んだ当時の新しい歌を積極的に取り上げていたと言える。

②歌詞の特徴

では、子どもにとって分かりやすい歌詞とするために、どのような工夫がなされたのだろうか。まず、明治期から大正初期に出版された唱歌集の編纂方針を見てみよう。『教科適用幼年唱歌』（田村、納所、1900）では、修身や読書科に関連する事項、四季の風物に関するものを題目とし、小学校教育に携わった者が子どもにとって平易で理解しやすい歌詞を作ったことが「緒言」に記されている。吉丸一昌（1912：例言）は、『幼年唱歌』の歌詞について「児童の音楽遊戯の資材」に基づいて、吉丸自身が「感興の湧くに従って作歌した」と述べている。小山（2010a）によると、『大正幼年唱歌』の編纂者の一人である葛原しげるも、自身の教育経験から幼児理解を深めるとともに、保育者らとの相互交流を通して、幼児に即した唱歌の研究を重ねていたと述べている。このように、編纂者は子どもを意識していたことが窺われ、特に田村、納所及び葛原は、自らの研究のみならず、日頃から児童や幼児と直接関わり、理解している教師や保育者が、歌詞の作成に直接あるいは間接的に関与していた点が興味深い。

次に、歌詞の内容について、名須川（2004）は明治期の唱歌には徳目が盛り込まれていることを指摘している。とりわけ、1890（明治23）年の教育勅語発布の影響が大きいといい、唱歌遊戯に含まれる徳目を、教育勅語の内容別に分類している（名須川、2004：76）。それによると、資料3中《花咲爺》は教育勅語の「恭儉己レニ持シ博愛衆ニ及ボシ」を比喩的に、《夕立》は「学ヲ修メ業ヲ習ヒ」を比喩的に表しているという。また、《金太郎》は忠君愛国の一要素である「克ク忠ニ克ク孝ニ」を比喩的に表すと示されている。名須川が分類をしていない《飛行機の夢》はどうだろうか。この曲は、明治から大正に改元した約1か月後の大正元年9月2日に作られた。右に示した歌詞の内容は、一節は飛行機に乗った夢、二節が学校で良い成績を取ると良い子であると褒められる話である。日本人が初めて飛行機の飛行に成功したのは、1910（明治43）年のことである。翌年から外国の飛行家が来日し、航空ショーを行ったといい¹、当時の世の中では飛行機に対する憧れがあったことが窺える。二節は徳目を直接的に表しており、教育勅語では「学ヲ修メ業ヲ習ヒ」にあたりと考えられ、勉学に励むことで、憧れの職業に就くことができることを伝えようとしていることが読み取れる。以上の点から、こうした徳目を含んだ歌が昭和期の幼稚園で子どもたちに歌われていたことが分かった。

飛行機の夢

作詞：吉丸一昌

- 一 僕が作った飛行機の
ハンドル執って舞ひあがり
日本国中飛んで見た。
これは昨夜の夢で候。
- 二 読書算術、体操と
何でも甲を貰ったら
この児は良い児と褒められた。
これはほんとの事で候。

『大正幼年唱歌』を編纂した一人であり、数々の童謡の作詞者である葛原しげるの歌詞の特徴について、小山（2010a：5）は、「①単純明瞭で長すぎないこと、②擬声語や擬態語、反復が多用されていること、③言葉の選択やアクセント（曲との結合）に注意が払われていること、④擬人法や比喩が使用されていること」という4点を挙げている。葛原自身（1916：44）は、擬声と擬態が幼児の歌に「力強い命を与へる」と述べた上で、幼児の表現からこれらをなくしたら、「幼児の理解は、不徹底不充分を通り越して、ごちないものになってしまう」と主張している。『日誌』で取り上

1 国立国会図書館「ようこそ、空へー日本人の初飛行から世界一周までー」本の万華鏡第5回（URL: <https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/5/1.html> アクセス日：2024年10月30日）

げられた歌においては、歌詞まで特定できた34曲中19曲で擬声語・擬態語が用いられていた。特に、右に歌詞を示した《俵はごろごろ》では、♪♪♪♪・のリズムにのせて、「ごろごろ」「どっさりこ」「ざっくりこ」「にっこりこ」「ぴっかりこ」という韻を踏んだ擬態語を、それぞれのイメージに合わせて歌い、楽しんでいたのではないだろうか。

俵はごろごろ

作詞：野口雨情

たはらは ごろごろ
 おくらに どっさりこ
 おこめは ざっくりこで
 チュッチュねずみは にっこりこ
 おほしさま ぴっかりこ
 よるのおそらに ぴっかりこ

③音楽の特徴

『日誌』に記録され、作詞・作曲者が特定できた歌は、全て日本人によって作曲されたものであった。明治後期の唱歌集には作曲上、配慮、重視した点が示されている。『教科統合幼年唱歌』初編上巻（1900：3）の「凡例」を見ると、「能く其音程、音域の如何を審査」したこと、そして「凡例」（同：4）には「強弱は、唱歌上最も大切なれば、注意せん事を要す」と書かれている。例えば、《金太郎》（同：10）の楽譜には、冒頭に「稍緩徐に」という速度を示す語、「チ」（中等）や「シ・ツ」（次第に強く）といった強弱を表すものが見られる。また、『幼稚園唱歌』（1901：凡例1）には、楽譜上の指示は見られないが、「歌曲の速度は、決して緩漫に流るべからず、寧ろ急速なるべし」、「唱歌の方法は活発なるべし」と記されている。これらの編纂方針から、明治後期の唱歌集において子どもの発達に合わせて歌いやすくなるよう、音程や音域に配慮していたこと、強弱や速度、歌い方といった表現することを重視していたことが読み取れる。

こうした点を手がかりに、進藤が取り上げた歌の特徴について検討した。まず、『日誌』に記録された歌について、「拍子」、音域を示す「最低音」「最高音」（国際式による）を調査し、資料2に示した。拍子は2拍子系のみで、特に4分の2拍子のものが多く、3拍子系の曲は見られなかった。また、拍子が変更される歌も扱われていた。《お山の鬼》は8分の4拍子から4分の2拍子に変化する。拍の捉え方が変わること、音楽の流れの変化を味わうことができると考えられる。また、《どこかで春が》は4分の4拍子と4分の2拍子を行き来するため、フレーズの大小のまとまりによって作られる変化を感じながら歌っていたのではないだろうか。

拍子に関連してリズムに目を向けると、♪♪♪♪や♪♪といったシンプルなりズムでできた曲、ぴょんこ節（♪♪♪♪）でできた曲、ぴょんこ止め（♪♪♪♪）でできた曲があり、曲の中での変化は少なく、子どもにとってノリやすい傾向が見られた。

次に、音域はおおよそ9度に収まっており、中央のC4～C5を中心にB^b3～E5あたりの音が使われていた。《ポスト》ではG3という低い音が使われているが、C4を小音符で示し、変更して歌っても良いという配慮も示されている（『大正少年唱歌』第6集、1919：113）。

曲の雰囲気や歌い方に関わる要素には、調や音階もある。儀式で歌われる歌を除き、32曲が長調でできていることが分かった。長調のうち、10曲がヨナ抜き音階でできている曲も複数あった。また、《牧場の羊》は嬰へ短調で、《俵はごろごろ》は日本の音階（民謡音階と都節音階）でできた曲である。

以上の点から、進藤は明治期の唱歌集に書かれていた「急速」な速さや「活発」な歌い方で歌うような曲ばかりでなく、ゆったりするような曲や静かな曲、単純だけではなく変化を伴う曲など、様々な曲想の曲を取り上げていたことが明らかになった。

④指導の特徴

『日誌』（資料1）には、1929（昭和4）年7月9日に「三四名^{ママ}づつで唱はす」、翌10日に「独唱せしむ」と記録されている。また、6月28日に「非常によく唱ふ」、翌年2月25日には、『お花のトンネル』に続けて「上達す」と書かれている。さらに、複数の日に「練習」や「復習」と書かれていることから、繰り返し歌い、子どもが自力で歌えるようになるような歌唱指導をしていたのではないかと考えられる。

『日誌』中、1929（昭和4）年7月～11月を見ると、『夕立』や『チョコレエトの唄』、『神宮奉賛歌』、『さよなら』は1週間から10日ほど取り上げられていることが分かる。『さよなら』以外の3曲にはその日にどこまで扱ったのかが歌詞で示されており、子どもたちが無理なく歌えるようになるよう、細かく区切って指導していたことが窺える。

また、最新の動向を取り入れている様子も見られた。10月の式年遷宮に合わせて作られ、9月4日に文部省から告示された『神宮奉賛歌』は、12日後の9月16日から連日取り上げられている。1930（昭和5）年2月に歌われた『牧場の羊』（牧場の羊の歌）は、日本ビクターから発売されたレコードが前年10月3日の『官報』にて文部省からの推薦を受けたことが記されている。

さらに、進藤は、6月～7月の『朝顔』や、7月中旬の『夕立』、11月の『稲穂の雀』と新嘗祭、12月の『お正月』、1月の『お山の鬼』と節分、『春よ来い』や2月の『どこかで春が』と立春というように、季節と関連付けた保育計画を立てていたと考えられる。加えて、10月22日に動物園へ秋季遠足に行った翌日から『動物園で』を歌っている。『日誌』から、行事の歌は当日より前に取り上げられており、行事の日に歌うために練習していたことが窺える。しかし、『動物園で』については、遠足の翌日から歌っている。動物園で本物の動物を見た印象や心が動いた体験をもとに、歌ったり表現したりすることが意図されていたのではないだろうか。

このように、進藤は子どもの実態や生活に即して唱歌で扱う曲を選んでいたと考えられる。

5-5. 遊戯

保育記録に明記されていた遊戯について、名須川（2004）の遊戯の分類を基に、「自然現象・自然物」「小動物・虫」「植物」「乗り物」「生活」「遊び」「仲間（友達）」「行事」「物語・思想・信条」「生活物・物・建築物」の10項目に分類し、活動の回数とともに資料3に示す。

その結果、「遊び」の題材が約24.6%と最も多く、その中には二列行進やスキップなどの基本的な動きも含まれる。次いで「乗り物」16.6%、「物語・思想・感情」12.6%、「生活」12.0%、「自然現象・自然物」「小動物・虫」がともに11.4%となった。遊戯についても、比較的多様で季節にあった題材を幅広く実施していたと指摘できる。

一方、「仲間」や「行事」に関わる遊戯の記述はなかった。この時期、土川五郎の作品も「仲間」に関わる作品は少ないことも影響していると考えられる。また、「行事」に関わる土川の題材で昭和4年までに発表の題材は「お正月」「日の丸の旗」「鯉登り」「雛祭り」などであるが、このような行事の遊戯の記載はなく、『神宮奉賛歌』や新嘗祭の行事を中心に歌唱指導が行われていたのではないかと推測される。

遊戯の中で、最も多く行われていたのが「小さき汽車」9回だが、土川五郎振付の同じタイトルのものは見つからず、様々な遊戯を積極的に取り入れたのか、独自に振付を創作した可能性もあるが、より詳細な研究が必要であろう。「たこ」7回と「律動たこ」5回が同一のものが判別できないが、

冬に集中的に凧に関わる遊戯を多く行ったことが読み取れる。土川振付の「凧」は、凧をあげる様子や凧が飛ぶ様子を跳ぶ動作や両手をあげる動作で表し、凧が揺れる様子を左右に三步進んでは上方を指す動作をするなど、大きな動きで表しているのが特徴である。

また、「チョコレートの唄」は集中して6回実施している。1929（昭和4）年『幼児の教育』第六輯の「チョコレート之歌」と同年の『コドモノクニ』に掲載された歌は、歌詞は同一であると確認できる。『日誌』に書かれた歌詞の表記から見て、実際に行っていたのは『コドモノクニ』掲載の「チョコレート唄」と一致し、雑誌に掲載された遊戯を積極的に取り入れて行ったと考えられる。

5-6. 唱歌と遊戯の関連

『日誌』からは、唱歌と遊戯の両方で取り上げられた曲の展開について、次の3つのタイプに分類することができた。

①唱歌から遊戯の順に進める

《お月さんと遊ぼう》や《お花のトンネル》、《どこかで春が》

②唱歌と遊戯の往還する

《夕立》《さよなら》《動物園で》《お山の鬼》《チョコレート唄》

③期間をあけて別々に扱う

《キューピーさん》《俵はごろごろ》

3つのタイプとも、遊戯からではなく唱歌から扱う点は共通していた。①と②のタイプが多く、あまり日を開けずに取り上げている点から、進藤が唱歌と遊戯を関連付けて考えていたことが窺える。注目したいのは②で、《夕立》は夏休みを挟んで取り上げており、『日誌』の記述からも、8月23日及び26日の唱歌と遊戯は復習に位置付けられていると言えるだろう。《チョコレート唄》と《動物園で》は、『日誌』の記録から、一節歌うと振りを練習し、次の節を歌って振りを練習していた様子が窺える。曲全体を歌えるようになってから振りをつけるのではなく、曲を区切って唱歌と遊戯を少しずつ進めていたと考えられる。

6. まとめと今後の課題

本研究では、唱歌および遊戯に焦点を当て、昭和初期の進徳幼稚園で具体的にどのような保育が展開されていたのか、また、その中で子どもたちがどのようなことを経験していたのかを明らかにすることを目的として検討を行った。その結果、以下の3点が明らかになった。

1点目は、子どもに配慮した曲、内容、指導であったということである。子どもに分かりやすい言葉で書かれた歌詞と内容、音楽、遊戯を取り上げてだけでなく、無理のないように曲を区切って練習をする様子が窺えた。しかし、一部には幼児にとって少し難しいと思われる、変化を伴う歌や遊戯も取り上げられていた。

2点目は、様々な幅広い曲が取り上げられていたということである。明治30年代の言文一致唱歌から最新の童謡まで、歌い継がれたものと新しいものを組み合わせて取り上げていたと考えられる。また、修身的な内容が埋め込まれた歌や、遠足での体験を踏まえた内容の歌や遊戯を取り入れていたことから、進藤が心や身体に働きかけるような工夫をしていたと考えられる。音楽的特徴からは、明治期の唱歌集の編纂方針に見られた子どもを考慮した要素を超えて、多様な音楽に出会えるような選曲がなされていた。多様な音楽や遊戯に出会い、表現することを通して、豊かな感性を育てようとした

のではないかと考えられる。

3点目は、子どもの生活に根ざした系統的な保育の一端が見られたことである。唱歌と遊戯が関連し合っていることもそうであるが、季節に合う歌や行事に関わる歌を取り上げていたり、遠足での実体験を唱歌と遊戯に生かす点も系統的な保育の萌芽と見て良いのではないだろうか。

今後の課題としては、今回踏み込んだ検討ができなかった遊戯の具体的な内容について、唱歌や他の保育内容との関連を考慮しながら検討していきたい。

引用参考文献

- 阿部真美子 (1994) 「山梨県保育史研究ノート (1) 草創期の様相①—山梨縣師範学校附属幼稚園教室日誌について—」『山梨県立女子短期大学紀要』第27巻、pp.159-162。
- 阿部真美子 (2014) 「進藤津る——山梨の幼児教育を拓き育てて」『「聞き書き」証言集 伝えたい 山梨の女性たち』第2集、山梨県立大学・やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト、pp.268-274。
- 池田政子 (2014) 「進藤津る——山梨の女性史の視点から」同上、pp.254-267。
- 江崎公子、澤崎眞彦 (2017) 『唱歌大事典』東京堂出版。
- 川池智子 (1994) 「山梨県保育史ノート (4) 昭和戦前期における山梨県の保育—農繁期託児所の創設と展開を中心として—」『山梨県立女子短期大学紀要』第27巻、pp.181-192。
- 葛原しげる (1931) 「幼児の為の唱歌を作りて」『幼児の教育』第31巻第6号、pp.36-45。
- 国立国会図書館「ようこそ、空へ—日本人の初飛行から世界一周まで—」本の万華鏡第5回 (URL: <https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/5/1.html> アクセス日: 2024年10月30日)。
- 小山みずえ (2010a) 「葛原しげるにおける『幼年唱歌』の創作」『上智教育学研究』第23号、pp.1-15。
- 小山みずえ (2010b) 「昭和初期の山梨県進徳幼稚園における『系統的保育案』の受容」『幼児の教育』第109巻12号、pp.26-31。
- 小山みずえ (2012) 『近代日本幼稚園教育実践史の研究』学術出版会。
- 澤崎眞彦 (2017) 「唱歌教育」と『唱歌集』の変遷」『唱歌大事典』東京堂出版、pp.14-17。
- 沢登芙美子 (1995) 「明治期の『音楽教育』について」『山梨県立女子短大紀要』第28号、pp.157-172。
- 進藤津る (1938) 『私立進徳幼稚園創立40周年記念誌』進徳幼稚園。
- 進徳幼稚園 (1998) 『進徳幼稚園創立100周年記念誌』。
- 田村虎蔵、納所辨次郎 (1900) 『教科適用幼年唱歌』初編上巻、十字屋。
- 土川五郎『表情遊戯』第二輯、律動遊戯研究所。
- 名須川知子 (2004) 『唱歌遊戯作品における身体表現の変遷』風間書房。
- 山梨県立女子短期大学山梨県保育士研究会 (1998) 『見る山梨県保育史』星雲社。
- 山梨県立美術館 (2024) 『山梨モダン1912～1945』。
- 川池智子 (1994) 『昭和戦前期における山梨県の保育—農繁期託児所の創設と展開を中心として—』山梨県女子短期大学紀要、27巻、pp.181-192。

資料1「昭和四年五月 日誌 進徳幼稚園」中、「遊戯」「唱歌」記録

凡例

- ・表記ゆれの名称は、イタリック（斜体）で表記した。
- ・括弧付きの名称〔例：（動物園で）〕は、歌詞の記録から特定できたものを筆者が加筆した。
- ・行事や行事に伴う休日は、網かけにした。

西暦	和暦	月	日	曜日	遊戯	遊戯の名称	唱歌	曲名	備考
1929	昭和4	5	13	月	有	かいぐり おしぎ 螢	有	螢こいこい 螢の学校 つばめ	遊戯は第一次、遊戯名のあと「其の他」 唱歌は第三時、曲名のあと「其の他」
1929	昭和4	5	14	火	有	二列行進 つよき歩み おじぎ 進軍 送りっこ きのふもけふも	有	螢 金太郎 お日が照る照る おねむり 烏	遊戯は第四時 唱歌は第二時
1929	昭和4	5	15	水	有		有		唱歌に「復習」とあり。
1929	昭和4	5	16	木	有		有	家	「家の復習」とあり。
1929	昭和4	5	17	金	無		有		唱歌に「復習」とあり。
1929	昭和4	5	18	土	有		有		
1929	昭和4	5	20	月	有		有		
1929	昭和4	5	21	火	無		有		
1929	昭和4	5	22	水	有	金太郎	有		
1929	昭和4	5	23	木	有		有		
1929	昭和4	5	24	金	有		有		
1929	昭和4	5	25	土	無		有		
1929	昭和4	5	27	月	有	真似	有		
1929	昭和4	5	28	火	有		有		
1929	昭和4	5	29	水	有		有		
1929	昭和4	5	30	木	有		有		
1929	昭和4	5	31	金	有		有		
1929	昭和4	6	1	土	無		無		身体検査
1929	昭和4	6	3	月	無		無		身体検査
1929	昭和4	6	4	火	無		無		「午前中 視力検査」
1929	昭和4	6	5	水	有	男 金太郎 螢の学校 女 おじぎ つばめ むすんで	無		端午の節句 「集会遊戯」とあり。「むすんで」は男女 一緒か。
1929	昭和4	6	6	木	有		有		
1929	昭和4	6	7	金	有	スキップ	有	キューピー 月 飛行機	
1929	昭和4	6	8	土	無		有		
1929	昭和4	6	10	月	有	大きなお日様 おいてきぼり	有		時の記念日
1929	昭和4	6	11	火	有	ぞいてきぼり	有		
1929	昭和4	6	12	水	有	箱の細き共に	有	東の山に	遊戯の表記確認。

西暦	和暦	月	日	曜日	遊戯	遊戯の名称	唱歌	曲名	備考
1929	昭和4	6	14	金	有		有		
1929	昭和4	6	15	土	有		無		
1929	昭和4	6	17	月	有	隅田のボート	有		
1929	昭和4	6	18	火	有	水兵	有	俵はごろごろ 朝顔	
1929	昭和4	6	19	水	有		有		
1929	昭和4	6	20	木	有		無		
1929	昭和4	6	21	金	有		有		遊戯は第四時 唱歌は第二時
1929	昭和4	6	22	土	無		有		
1929	昭和4	6	24	月	有	東の山に	有		
1929	昭和4	6	25	火	有		有		
1929	昭和4	6	26	水	有		有		
1929	昭和4	6	27	木	有	飛行機 ケロケロ	有		遊戯に「復習 飛行機 ケロケロなど」 唱歌に「復習」とあり。
1929	昭和4	6	28	金	有	おいてきぼり	有		遊戯に「やや上達す」 唱歌に「復習 非常によく唱ふ」
1929	昭和4	6	29	土	無		有		
1929	昭和4	7	1	月	有		有		「本日ヨリ保育時間午前八時ヨリ全十一 時三十分までと改めらる」
1929	昭和4	7	2	火	有	鳩	有	ポスト	
1929	昭和4	7	3	水	有	桃太郎 機織り 鳩ぼっぽ つばめ 結んで 送りっこ	有	ポスト	遊戯「全園児にて」
1929	昭和4	7	4	木	有	水兵 隅田のボート 東の山に 金太郎	有		遊戯は「全園にて」 唱歌に「復習」とあり。
1929	昭和4	7	5	金	有	ポスト 鳩	有	朝顔 お月様遊ぼう	遊戯には「其の他」とあり。
1929	昭和4	7	6	土	有	朝顔 ポスト	無		
1929	昭和4	7	8	月	有	夕日	有		「夕日」のあと「ぎんぎんぎらぎら夕日が 沈む ぎんぎんぎらぎら日が沈む」とあり。 唱歌には「復習」とあり。
1929	昭和4	7	9	火	有	夕日	有	夕立	「夕日」のあと「真赤真赤空の雲ぎ んぎんぎらぎら日が沈む」 「夕立」のあと「見る間に曇る青い 空 びかびか光る稲光り 其のあと で三四名づつで唱はす」とあり。
1929	昭和4	7	10	水	有	水兵 鳩 朝顔 送りっこ	有	(夕立)	「会集遊戯」 唱歌には「鳴り出す雷ゴロゴロゴロゴ ロ」「柳沢 岡島 外数名に独唱せしむ」 とある。
1929	昭和4	7	11	木	有		有	夕立	遊戯には「復習」 「夕立(また鳴る光るそのうちに木の葉 を打って屋根打って)」とあり。
1929	昭和4	7	12	金	有	夕日	有	夕立	「夕日 からすよお日を追ひかけて 真 赤に●●●●●こい」 「夕立 降り出す大雨バラバラバラバ ラ」
1929	昭和4	7	13	土	無		有	夕立	
1929	昭和4	7	15	月	有	夕立 進軍	有	夕立	唱歌に「つづいて光る鳴る光る雨はだ んだんひどくなる」
1929	昭和4	7	16	火					「氏神祭に付休業」
1929	昭和4	7	17	水	有	夕立	有	夕立	
1929	昭和4	7	18	木	有		有		
1929	昭和4	7	19	金	有		有		唱歌に「復習」とあり。
1929	昭和4	7	20	土	有	水兵 夕日 夕立	無		終業式
1929	昭和4	8	21	水	有	からす 螢 俵はごろごろ 送りっこ	無		始業式 「遊戯(全体)」とあり。
1929	昭和4	8	22	木	有		無		

昭和初期の山梨県進徳幼稚園における「唱歌」及び「遊戯」の展開

西暦	和暦	月	日	曜日	遊戯	遊戯の名称	唱歌	曲名	備考
1929	昭和4	8	23	金	有	水兵 鳩 俵はごろごろ	有	東の山に、見よ や学べる ニコニコピンピ ンの歌 飛行機 タ立 進軍 ポスト	
1929	昭和4	8	24	土	有		有		「遊戯 全 復習 唱歌●」(全？全？)
1929	昭和4	8	26	月	有	タ立 おじぎ 電車	無		「タ立 おじぎ 電車 等復習」
1929	昭和4	8	27	火	有		有		唱歌に「練習」とあり。
1929	昭和4	8	28	水	有		無		
1929	昭和4	8	29	木	有		有		遊戯に「練習」、唱歌に「復習」とあり。
1929	昭和4	8	30	金	有	おじぎ タ立 鳩 タ日	無		
1929	昭和4	8	31	土	有	烏 かいぐり 樽をり 桃太郎 かめ	有	鬼さん お月さん遊ぼう	遊戯名、曲名のあと「其の他」とあり。
1929	昭和4	9	2	月	有	お月様遊ぼう おにさん	有	チョコレート之歌	チョコレートの歌は「二節まで」
1929	昭和4	9	3	火	有	進軍	有	チョコレートの 歌	進軍は「半分まで」
1929	昭和4	9	4	水	有	進軍	有	チョコレートの 歌	進軍は「終りまで」 チョコレートの歌は「(1)の終りまで」
1929	昭和4	9	5	木	有	おとぎ お月様遊ぼう 鬼さん 進軍	有	チョコレートの 歌 南京王	遊戯名のあと「其の他」
1929	昭和4	9	6	金	有		有		それぞれ「復習」とあり。
1929	昭和4	9	7	土	無		有		唱歌に「復習」とあり。
1929	昭和4	9	9	月	有	チョコレートの歌	有		唱歌に「復習」とあり。
1929	昭和4	9	10	火	有	チョコレート	無		
1929	昭和4	9	11	水	有	チョコレート	有		「チョコレート(2)」
1929	昭和4	9	12	木	有	チョコレート	有	チョコレート	
1929	昭和4	9	13	金	有		有		
1929	昭和4	9	14	土	有		有		
1929	昭和4	9	16	月	有	貰ったお土産も チョコレート	有	神宮奉賛歌	「天土のむた きはみなく」とあり。 神宮奉賛唱歌...第五十八回神宮式年 遷宮を機に、歌詞は公募一等作品を修 正し、曲は東京音楽学校に委嘱して作 られた。昭和4年9月4日文部省告 示。
1929	昭和4	9	17	火	有	チョコレート	有	(神宮奉賛 歌) チョコレート	遊戯「チョコレート 終りまで」 唱歌「前日の復習 及 チョコレート (4)」
1929	昭和4	9	18	水	有	飛行機(律動)	有	(神宮奉賛歌)	「天津日嗣は」
1929	昭和4	9	19	木	有	飛行機	有	(神宮奉賛歌)	「天津日嗣は榮んと」
1929	昭和4	9	20	金	無		有		唱歌に「練習」とあり。
1929	昭和4	9	21	土	有		有	(神宮奉賛歌)	遊戯に「全生」 唱歌に「御国の基たてませる」
1929	昭和4	9	23	月					「秋季皇霊祭にて休業」
1929	昭和4	9	24	火	有	飛行機	有	(神宮奉賛歌)	「すめらみおやのかしこさよ」
1929	昭和4	9	25	水	有		有	神宮奉賛唱歌	唱歌に「復習」とあり。
1929	昭和4	9	26	木	有		有	さよなら	
1929	昭和4	9	27	金	有		有		
1929	昭和4	9	28	土	有		有	さよなら	
1929	昭和4	9	30	月	有	さよなら 雨が降ります	有		
1929	昭和4	10	1	火	有	さよなら	有	さよなら	
1929	昭和4	10	2	水					「神宮式年遷宮祭遙拜式」
1929	昭和4	10	3	木	有		有	さよなら	
1929	昭和4	10	4	金	有		有		

西暦	和暦	月	日	曜日	遊戯	遊戯の名称	唱歌	曲名	備考
1929	昭和4	10	5	土	有		無		
1929	昭和4	10	7	月	有		有	花咲翁	
1929	昭和4	10	8	火	有	さよなら	有	花咲翁	
1929	昭和4	10	9	水	有	花咲翁	有	数へ方	「花咲翁 一番」 「数へ方 百まで」
1929	昭和4	10	10	木	有	花咲翁	有		「花咲翁 終まで」
1929	昭和4	10	11	金	有		有		唱歌に「練習」とあり。
1929	昭和4	10	12	土	無		有		
1929	昭和4	10	14	月	有		有	たこ	
1929	昭和4	10	15	火	有		有		
1929	昭和4	10	16	水	無		無		「春日小学校運動会参観」
1929	昭和4	10	17	木					「神嘗祭及市制祭にて休業」
1929	昭和4	10	18	金	有		有	たこ	遊戯に「練習」とあり。
1929	昭和4	10	19	土	有		有	明治節唱歌	「はじめより大御光に隈なくはらいまで」
1929	昭和4	10	21	月	有		有	(明治節唱歌)	「教えあまねくより終りまで」
1929	昭和4	10	22	火	無		無		「秋季遠足 大田町公園 動物園」
1929	昭和4	10	23	水	有		有	(動物園で)	遊戯に「全生」 唱歌に「ぞうさんお鼻にりぼんをつけて ——お●●なさい」とある。
1929	昭和4	10	24	木	有		有	(動物園で)	唱歌に「ふうらりふうらりふうらりよ」とあり。
1929	昭和4	10	25	金	有	象さん(動物園で)	有	象さん(動物園で)	
1929	昭和4	10	26	土	無		有	(動物園で)	唱歌に「真赤なりボンがふうらりよ」
1929	昭和4	10	28	月	有		有	(動物園で)	唱歌に「ツルさんあんよにお鈴をつけてお●●なさい」
1929	昭和4	10	29	火	有		有	(動物園で)	「第四時 屋外遊戯」 唱歌に「チンチンチンカラ...銀のお鈴が チンカラカン」
1929	昭和4	10	30	水	有		有	(動物園で)	唱歌に「山羊さん.....ひなたでぬむり こつくりしよ」
1929	昭和4	10	31	木	有		有		
1929	昭和4	11	1	金	有		有		「屋外遊戯」
1929	昭和4	11	2	土	有		無		遊戯に「練習」
1929	昭和4	11	3	日	有		無		「明治節祝賀式 式後遊戯会をひらく」
1929	昭和4	11	4	月					「休日とす 英和幼稚園を参観す」
1929	昭和4	11	5	火	有	(動物園で)	有	首ふり人形	遊戯に「つるさんあんよに——」とあり。
1929	昭和4	11	6	水	有	にこにこ 朝の歌 まね スキップ (動物園で)	有	首ふり人形	「会集遊戯」に「にこにこ 朝の歌 まね スキップ」 「遊戯」に「山羊さん.....終りまで」
1929	昭和4	11	7	木	有	鳩 機織り 先生のまね	有	首ふり人形	「会集遊戯」に「鳩 機織り 先生のまね」とあり、別に「遊戯」の欄がある。
1929	昭和4	11	8	金	有	桃太郎 もしもしかめよ 結んで(巻きな ●●) 小さい汽車	有	首ふり人形	「会集遊戯」に「桃太郎 もしもしかめよ 結んで」 「遊戯」に「小さい汽車」 首ふり人形は「終りまで」とある。
1929	昭和4	11	9	土	有	かいぐり にこにこ鳩 まね 小さい汽車			「会集」に「遊戯 かいぐり にこにこ鳩 まね」 「遊戯」に「小さい汽車」
1929	昭和4	11	11	月	有	大きなお日様 小さい汽車	有		「会集」に「遊戯 大きなお日様」 「遊戯」に「小さい汽車」
1929	昭和4	11	12	火	有	小さい汽車	有		
1929	昭和4	11	13	水	有	小さい汽車	無		「小さい汽車」は「とんねるまで」
1929	昭和4	11	14	木	有	小さい汽車	無		「小さい汽車 その他」とある。
1929	昭和4	11	15	金	有		有		
1929	昭和4	11	16	土	有	小さい汽車 たこ さよなら	無		遊戯には「さよなら」のあと「其の他」とあり。
1929	昭和4	11	18	月	有		有	稲穂の雀	
1929	昭和4	11	19	火	有		有	稲穂の雀	
1929	昭和4	11	20	水	有		有		
1929	昭和4	11	21	木	有		有		唱歌に「練習」
1929	昭和4	11	22	金	無		無		「山八橋神社まで遠足」
1929	昭和4	11	23	土					「新嘗祭 休日」

昭和初期の山梨県進徳幼稚園における「唱歌」及び「遊戯」の展開

西暦	和暦	月	日	曜日	遊戯	遊戯の名称	唱歌	曲名	備考
1929	昭和4	11	25	月	有	たこ	有	飛行機の夢	
1929	昭和4	11	26	火	有	飛行機のゆめ	有	飛行機の夢	
1929	昭和4	11	27	水	無		有	散るよ散るよ	
1929	昭和4	11	28	木	有	飛行機の夢	有	散るよ散るよ	
1929	昭和4	11	29	金	有		有	おどれ	朝会で「首ふり人形 ニコニコ」とあるが、遊戯か唱歌かは不明。 遊戯に「練習」
1929	昭和4	11	30	土	無		有		
1929	昭和4	12	2	月	有	可愛いばら	有	上り眼下り眼	
1929	昭和4	12	3	火	有	可愛いばら	有	上り目下り目	
1929	昭和4	12	4	水	無		有		
1929	昭和4	12	5	木	有		有		
1929	昭和4	12	6	金	有	おどれ	有	かうもり来い	
1929	昭和4	12	7	土	有	おどれ	無		
1929	昭和4	12	9	月	有	かうもり来い	有	お星びかびか	
1929	昭和4	12	10	火	有		有		
1929	昭和4	12	11	水	無		有	お星びかびか	
1929	昭和4	12	12	木	有		有		
1929	昭和4	12	13	金	有		有	四方拝拝賀式 唱歌	
1929	昭和4	12	14	土	無		有	式の唱歌	
1929	昭和4	12	16	月	有		有	お正月	
1929	昭和4	12	17	火	有		有		
1929	昭和4	12	18	水	有		有		
1929	昭和4	12	19	木	有		有		
1929	昭和4	12	20	金	有	汽車 飛行機のゆめ たこ	有		「合同遊戯」で松の組が行ったものが記録されている。
1929	昭和4	12	21	土	有	飛行機 汽車 さよなら	無		終業式
1930	昭和5	1	9	木	有	飛行機 飛行機の夢 進軍	有		始業式
1930	昭和5	1	10	金	有	律動たこ	有	お山の鬼	「お山に鬼が居るさうな皆で退治に行かないか退治に行く者よって来い」
1930	昭和5	1	11	土	無		有	(お山の鬼)	「ここのお山の細道は紅いもみじのトンネルじゃ」
1930	昭和5	1	13	月	有	律動たこ	無		
1930	昭和5	1	14	火	有	律動たこ	有	雪の子	「律動たこ」の後に「終りまで」 「お山の鬼は後まわしにして(雪の子)を教ふ」とあり。
1930	昭和5	1	15	水	有	律動たこ 飛行機 小さい汽車 可愛いばら	有	雪の子	「もっと降れ降れずんずんずんつもれ」
1930	昭和5	1	16	木	有		有	(雪の子)	「あちらのお山もうづめてしまへ……終りまで」とあり。
1930	昭和5	1	17	金	無		有		唱歌に「複習」とあり。
1930	昭和5	1	18	土	無		有		唱歌に「複習」とあり。
1930	昭和5	1	20	月	有		有	お山の鬼	
1930	昭和5	1	21	火	無		有	お山の鬼	
1930	昭和5	1	22	水	有	たこ 汽車 輪取り	有	お山の鬼	
1930	昭和5	1	23	木	有		有	お山の鬼	
1930	昭和5	1	24	金	無		有	お山の鬼	
1930	昭和5	1	25	土	無		有		
1930	昭和5	1	27	月	有	お山のおに 輪取り	有	お山の鬼	
1930	昭和5	1	28	火	有		有	春よ来い	
1930	昭和5	1	29	水	有	汽車 たこ お山の鬼	無		「合同遊戯」と書かれている。
1930	昭和5	1	30	木	有		有	春よ来い	
1930	昭和5	1	31	金	有		有	紀元節唱歌	
1930	昭和5	2	1	土	無		有	(紀元節唱歌)	唱歌に「前日に同じ」とある。
1930	昭和5	2	3	月	有	雪やこんこん	有	紀元節唱歌	「紀元節唱歌二番」
1930	昭和5	2	4	火	無		無		

西暦	和暦	月	日	曜日	遊戯	遊戯の名称	唱歌	曲名	備考
1930	昭和 5	2	5	水	無		有	紀元節唱歌	
1930	昭和 5	2	6	木	有		無		「合同遊戯」とある。
1930	昭和 5	2	7	金	無		有		
1930	昭和 5	2	8	土	無		有		
1930	昭和 5	2	10	月	無		有		「式の練習」とある。
1930	昭和 5	2	11	火	無		無		紀元節
1930	昭和 5	2	12	水	有	春が来た	有	春が生れてる	
1930	昭和 5	2	13	木	有	キューピー	有	(春が生れてる)	唱歌に「前日のつづき」とあり。
1930	昭和 5	2	14	金	有	キューピー たこ 雪の子	有		「合同遊戯」とある。
1930	昭和 5	2	15	土	無		有	どこかで春が生れてる	「どこかで春が生れてる 終り」とあり。
1930	昭和 5	2	17	月	有	キューピー	有	お花のトンネル	「キューピー」の下に「(二)」, もしくは「(こ)」?とある。
1930	昭和 5	2	18	火	有		有	お花のトンネル	遊戯に「練習」とあり。
1930	昭和 5	2	19	水	有	どこかで春が生まれてる	有	お花のトンネル	
1930	昭和 5	2	20	木	有		有		
1930	昭和 5	2	21	金	有	お花のトンネル	有		
1930	昭和 5	2	22	土	無		無		「舞鶴公園に散歩」
1930	昭和 5	2	24	月	有	お花のトンネル	有		
1930	昭和 5	2	25	火	有	お花のトンネル	無		「お花のトンネル」の下に「上達す」とあり。
1930	昭和 5	2	26	水	有		有		
1930	昭和 5	2	27	木	有		有	牧場の羊	
1930	昭和 5	2	28	金	有		有	牧場の羊	
1930	昭和 5	3	1	土	有	お花のトンネル 律動タコ 春	無		「合同遊戯」とある。
1930	昭和 5	3	3	月	有		有	卒業の歌	
1930	昭和 5	3	4	火	有		有	卒業の歌	
1930	昭和 5	3	5	水	有		有		
1930	昭和 5	3	6	木	有		有	卒業の歌	
1930	昭和 5	3	7	金	有		有		
1930	昭和 5	3	8	土	無		有		
1930	昭和 5	3	10	月	有		有		
1930	昭和 5	3	11	火	有		有		
1930	昭和 5	3	12	水	有		有		
1930	昭和 5	3	13	木	有		有		
1930	昭和 5	3	14	金	有		有		
1930	昭和 5	3	15	土	有		有		
1930	昭和 5	3	17	月	有		有		
1930	昭和 5	3	18	火	無		有		
1930	昭和 5	3	19	水	無		無		「武田神社へ遠足」とあり。
1930	昭和 5	3	20	木	有		有		
1930	昭和 5	3	21	金	無		無		春季皇霊祭
1930	昭和 5	3	22	土	有		無		遊戯の下に「合同」とある。 「卒業式予行練習」
1930	昭和 5	3	24	月	有	(男)たこ 飛行機の夢 進軍 (女)小さい汽車 お花のトンネル さよなら	無		卒業式 梅の組, 雀の子 キューピー かうもり 竹の組, 水兵 たこ 動物園で 南京玉

資料 2 : 『日誌』中, 「唱歌」に記録された, かつ特定できた歌一覧

分類	曲名	作詞	作曲	初出	発表年／出版年	拍子	最低音	最高音	擬声 擬態	遊戯での 取り扱い	備考
儀式で 歌われた 歌	紀元節 (紀元節唱歌)	高崎正風	伊澤修二		明治 21 (1888)	4/4	C4	D5	-	-	『日誌』昭和 5 年 2 月 3 日に「二番」にあることから, 葛原しげる作詞, 小松耕輔作曲『大正幼年唱歌』の《紀元節》ではないと考えられる。
	明治節唱歌	塩沢周安	杉江修一		昭和 3 (1928)	4/4A	D4	D5	-	-	祝日大祭日唱歌として制定
	神宮奉讃唱歌 (神宮奉頌唱歌)	文部省制定	東京音楽学校		昭和 4 (1929)	4/4A	D4	D5	-	-	第五十八回神宮式年遷宮を機に, 歌詞は公募一等作品を修正し, 曲は東京音楽学校に委嘱して作られた。昭和 4 年 9 月 4 日文部省告示。
明治期の 唱歌	金太郎	石原和二郎	田村虎蔵	『教科適用 幼年唱歌』初編上巻	明治 33 (1900)	2/4	C4	D5	○	○	
	花咲爺	石原和二郎	田村虎蔵	『教科適用 幼年唱歌』初編下巻	明治 34 (1901)	2/4	D4	D5	○	○	
	お正月	東くめ	瀧廉太郎	共益商社書店『幼稚園唱歌』	明治 34 (1901)	4/4	C4	C5	-	○	
	夕立	帝国教育会内言文一致会編纂		帝国教育会内言文一致会編纂『言文一致唱歌』	明治 36 (1903)	2/4	C4	C5	○	○	
	ホタルコイコイ (蛍こいこい)	景浦直孝	永井幸次	目賀田萬世吉『唱歌幼稚園』	明治 44 (1911)	2/4	D4	D5	○		楽譜は, 『律動的表情遊戯』第一輯 (ページ記載なし) に収録されている。
	飛行機の夢	吉丸一昌	大和田愛羅	『幼年唱歌』2	大正元 (1912)	2/4	D4	E5	-	○	
	木の葉	吉丸一昌	梁田貞	『幼年唱歌』2	大正元 (1912)	2/4	D4	D5	○		『日誌』には「散るよ散るよ」と記載。《木の葉》の歌詞の冒頭であると考えられる。
	飛行機	葛原しげる	小松耕輔	小松耕輔・梁田貞・葛原しげる編『大正幼年唱歌』第 1 集	大正 4 (1915)	2/4	C [#] 4	C [#] 5	-	○	
	つばめ	葛原しげる	小松耕輔	小松耕輔・梁田貞・葛原しげる編『大正幼年唱歌』第 5 集	大正 4 (1915)	2/4	C4	E5	○	○	
	進軍	葛原しげる	梁田貞	小松耕輔・梁田貞・葛原しげる編『大正幼年唱歌』第 10 集	大正 4 (1915)	2/4	C4	D5	○	○	
大正期の 唱歌	ポスト	葛原しげる	梁田貞	小松耕輔・梁田貞・葛原しげる編『大正少年唱歌』第 6 集	大正 8 (1919)	2/4	G3	E5	-	○	

分類	曲名	作詞	作曲	初出	発表年／出版年	拍子	最低音	最高音	擬声 擬態	遊戯での取り扱い	備考
童謡	ニコニコペンンの歌	葛原しげる	弘田龍太郎		大正 9 (1920)	2/4	D4	E5	○	○	
	南京玉	西村酔香	中山晋平	『ゴドモノクニ』第 2 巻 第 2 号	大正 12 (1923)	2/4	C4	E5	—	○	進徳幼稚園所蔵『児童遊戯教材解説』昭和 2 年 7 月, pp. 37-40 MUSIC-BOOK
	どこかで春が	百田宗治	草川信	陸軍省新聞明発表	大正 12 (1923)	4/4→2/4 →4/4	C#4	E5	—	○	
	春よ来い	相馬御風	弘田龍太郎	『金の鳥』第 2 巻第 3 号	大正 12 (1923)	2/4	C#4	C#5	—		
	キューピーさん (キューピー)	葛原しげる	弘田龍太郎		大正 13 (1924)	2/4	D4	D5	○	○	
	お月さんと遊ぶふ (お月様遊ばう)	葛原幽	小松耕輔	『童謡新曲 第二集 お月さんと遊ぶふ』	大正 13 (1924)	2/4	C4	D5	○	○	
	儀はごろごろ	野口雨情	本居長世	『金の星』第 7 巻第 12 号	大正 14 (1925)	4/4	C4	D5	○	○	詩は『金の船・金の星』(大正 14 年)に収録
	蝙蝠	富原義徳	佐々木すぐる	『青い鳥楽譜 第 39 編 蝙蝠/登松』	大正 15 (1926)	2/4	B#3	D5	—	○	『日誌』には「かうもり来いと記載。《蝙 蝠》の歌詞の一部と考えられる。
	上り目下り目	水谷まさる	中山晋平		大正 15 (1926)	2/4	C4	D5	—		MUSIC-BOOK
	牧場の羊	西城八十	中山晋平	『ゴドモノクニ』第 8 巻 第 4 号	昭和 4 (1929)	2/4	C#4	D5	○		昭和 4 年 10 月 3 日『官報』に文部 省が推薦したコードに、日本ビクター から 5 月に発売された《牧場の羊の歌》 のレコードが含まれている。進徳幼稚園 で取り上げられたのは、翌年の 2 月。
	チヨコレイトの唄 (チヨコレートの 歌)	西城八十	室崎琴月	『ゴドモノクニ』第 8 巻 第 10 号	昭和 4 (1929)				○	○	
	おどれ (ヲドレ)	倉橋惣三	小山作之助			2/4	D4	D5	○	○	楽譜は、『律動的表情遊戯』第一輯 (ページ記載なし)に収録されている。
	花のどんねる (お花のトンネル)	奥野庄太郎	梁田貞			2/4	D4	C5	○	○	
	蛍の学校	野口雨情	室崎琴月			2/4	D4	D5	—	○	
	稲穂の雀	葛原幽	梁田貞			2/4	C4	D5	○		
	雪の子	内海繁太郎	梁田貞							○	
	動物園で	西城八十	中山晋平			2/4	D4	D5	○	○	前日に動物園に遠足に行っている。 昭和 4 年 5 月に日本ビクターからレコ ードが発売されている。
	鬼さん									○	土川五郎
遊 戯	首ふり人形			『創作唱歌と遊戯』	昭和 2 (1927)	2/4	F4	E#5	○		京阪神聯合保育会
	お山の鬼			『創作唱歌と遊戯』	昭和 2 (1927)	4/8→2/4	C4	E5	○	○	京阪神聯合保育会

資料3:名須川(2004)に基づく、『日誌』中の「遊戯」に記録された曲の内容分類

自然現象・自然物	小動物・虫	植物	乗り物	生活	遊び	仲間 (友達)	行事	物語・思想・感情	生活物・物・建築物	回数
タ立	鳩	お花のトントンパー	小さい汽車 飛行機のゆめ (飛行機の夢)	さよなら	たこ	7	7	進軍	チヨコレートの歌 (チヨコレートの唄)	6
タ日	蛭	可愛いバラ	飛行機のゆめ (飛行機の夢)	おしぎ (おしぎ)	律動たこ	5	5	水兵	キューピー	3
東の山に	つばめ	朝顔	汽車	機織り	送りつこ	4	4	金太郎	ポスト	2
大きなお日様	からす (烏)	2	飛行機 (律動)	懐はごろごろ	かいぐり	3	3	桃太郎		
雪やこんこん	螢の学校	1	飛行機	貰ったお土産も	むすんで (結んで) ● (巻きな●)	3	3	花咲爺		
雪の子	鳩ぼっぽ	1	陣田のボート	朝の歌	をいてきぼり	3	3	おとぎ		
春が来た	かめ	1	電車	きのふもけふも	真似 (まね)	3	3	にこにこ		
春	象さん	1		箱の細き共に	お月様遊ぼう	2	2			
雨が降ります	ケロケロ	1			おにさん (鬼さん)	2	2			
どこかで春が生まれてる	もしもしかめよ	1			おどれ	2	2			
	にこにこ鳩	1			輪取り	2	2			
	かうもり来い	1			お山のおに (お山の鬼)	2	2			
					スキップ (動物園で)	2	2			
					先生のまね	1	1			
					二列行進	1	1			
					つよき歩み	1	1			
20 11.4%	20 11.4%	10 5.7%	29 16.6%	21 12.0%	43 24.6%	0 0.0%	0 0.0%	22 12.6%		11 6.3%

Development of *Shoka* and *Yugi* at Shintoku Kindergarten in Yamanashi Prefecture During the Early Showa Period

: Using 1929 (Showa 4) Data from the Childcare Diary

Sachiko Koshiyama^{* 1}, Makiko Takano^{* 1}

Abstract

This study investigates the type of childcare developed at Shintoku Kindergarten, the oldest kindergarten in Yamanashi Prefecture, focusing in particular on *Shoka* (songs) and *Yugi* (plays), as well as the experiences that the children at the daycare, using the *Nisshi* (daycare record) from the early Showa period (1929–1949), which has not been used in previous research. This study was conducted to clarify the type of childcare that was developed and what the children experienced at the daycare. The analysis revealed that the music, content, and instruction implemented at the daycare were designed with the children who attended it in mind; that a wide range of music was used; that the children were encouraged to encounter a variety of music and games; that they were encouraged to develop a rich sensibility through self-expression; and that systematic childcare, rooted in the children's lives, was carried out.

Keywords: Kindergarten, Shoka, Yugi, Early Showa Period, Yamanashi Prefecture

(Affiliation)

* 1 Yamanashi Prefectural University